WASON
HQ
1104
J74+

THE WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

明治二十年七月三十日刊行

第六十九號

毎土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送税

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 69. JULY 31ST, 1887.

EDITORIAL:—The two ways of Extending Women's Rights: No. I.

LEADING ARTICLE:—Address before the Tokyo Ladies' Educational Union, by Mr. K. Nagai.

MISCELLANIES:—A Virtuous Lady: No. 1, by M. U.; How to bring up Children, by Y. Ozaki.

CRITICAL NOTICES:—"The Family Book-keeping" (Ka-kei-boki-ho): "On Knitting" (Seiyo Amimono ho): Western Etiquette" (Wō-Bei Rei Shiki): "On Marriage" (Kon-In-Ron).

BIOGRAPHIES:—Sarah Martin: Mrs. T. Kimura.

NOVEL:—"Human Characters Delineated: A Novel, by Mrs. T. Nakashima; "Fragrant Rose": No. IV.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

第六十九號

●社説　女權伸張に表裏の二途あり
　第一　表面より之を論ずる事

●論説　東京婦人教育談話會(永井久一郎君)

●叢話　賢女の德義○子育て草

●批評　家計簿記法○西洋編物法○歐米禮式
○婚姻論

●佳傳　サラマーテン囚人を敎育したる事○
木村鐙子の傳の序

●小說　善惡の岐(中島俊子)薔薇の香第四回
(月の舍しのぶ)

●寄書　女は男を助るやの試驗(那珂璋子)

●新報　三十件　●廣告

○十一もしも草

○婚姻したる二人の方々若しも左の條々の如くならば則ち家内幸福にて在はすを得べし

若しも最初の交際を爲したる日の如く面白からんと勉め玉ふならば…

若しも何事かのイサカヒありたるのち直に接吻して心を慰るならば…

若しも其ツマの助け手また慰め手とならんとして能く勉め玉ふならバ…

若しも一家内の入費つねに在り金に相應し出入勘定よく償ふならば…

若しも妻たらん人が其夫に對し之を戀人とせし時の如く信切ならバ…

若しも双方にてツマは人間なりと心得之をバ天の使と思ふとなくば…

若しも夫たらん人が其妻に對し之を愛姬とせし時の如く考深からバ…

若しも双方にて婚姻は善きともあれバ亦惡きともありと心得たらバ…

若しも家内に晴衣少くして働くときの衣服多く而も晴衣少々あらバ…

若しも公會に於てのお世辭少くして家內に於ての禮儀あつくあらバ…

若しも夫婦相和樂して遊ぶとあり双方共但勞働の器械ぞと思ハずバ…

以上の十一若しもが若しも確かならバ即ち申分なかるべし

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第六十九號
明治二十年七月三十日

●社說

○女權伸張に表裏の二途あり

第一　表面より之を主張する事

支那の教には女子と小人とを同じ程に見立て天竺の教には婦人を以て夜叉の較べものと致したるが我國も亦た從前は女を男の器械道具の樣に心得その勝手氣儘に取扱ひて毫も頓着せざるものなりき、苟くも人類にして斯る亂暴の處置を蒙る以上は勢ひ慷慨發奮して其壓制者の羈を斷ち正當の地位に立反らんことを勉るものならんが故に當今我國の婦人方は申すに及ばず彼の天竺支那の如き半開の地方に於ても追々と女流中に先進の方々出現して數千年來卑屈に打沈んだる其姉妹を呼び醒し拮据して女權を伸張さるゝ如し、たゞし之は只だ以上三國に限りてのみ見る所の事にあらず凡そ半開の國が文明の世界へ開化せんとする時ハ何處に於ても皆な此の女權伸張と云へる一現象現出するものと思ハるゝなり。然るに茲に不思議なるは此の女權伸張と云へる所謂る女流が高きに就き其地位を進めんことを欲する所の處置に對してハ亦何處に於ても幾多の反對論起りて中々此の美事をバ美事と致さゝる如し抑も之れ何の故ぞや今ま人類總體が昔し野蠻にして今ま開化の時代に移らんとするか又は此迄權力と云へるものを放棄して居つたる者が今則ち壓制を惡んで自由を熱望すると申すか此等の奮發を致すものならんに誰しも理論上に於て之をバ宜しからぬ事とハ申さゝるべしたゞ〱其際に於て之を不愉快と感じて隨てハ之に反對し遂にハ其處置をも妨げんとするに至る者ハ即ち此等の變化進步が自己一身の不利益とならんことを苦慮する所の人々に限るとならん即ハち是迄一酋一部落の人を愚にして之を籠絡して居つたる酋長か若くは久しく專制束縛の政を施して民の自由を無みし來りたる政府官人の類ひなるべし若し然らずバ決して此美事を見て不可とするの理由あらざるべしと思ハるゝに恰も彼の女權伸張に反對する所の人々は即ち此の酋長若くは壓制者の如く從來婦人方を勝手氣儘に取扱ひたるものが今に至つて其婦人等より利口風たる議論を仕掛けられ從前の束縛に不同意を述られて是よりハ同等の處置を蒙らずバ相成らんなどと喧しく申さるゝにカンシヤクを起す所の輩なるべし而して此輩ハ之を不愉快に感ずるのみか斯て追々自己の隨意に婦人を取扱ふことの出來ざるを憾

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

みとし甚しきは遂に女が己の權力に立優つたる權力をも收むるに至らんなどと苦慮して扨ては斯く其女權伸張の議論に反對するの趣もあるべし故に其實際を窺ひ見れば之れ眞に人情の上に免るべからざる所の通弊にして敢て怪しむべきものにあらず今日歐米の如く開化したる文明の土地に於ても尙ほ同樣の反對ありと云はゞ我國の如く近く二三年前よりして始てその伸張論の出現したるに對して色々と苦情を申すものゝ存するあらんは眞に當然の勢あるべしと思はる。

然るに西洋には此樣なる反對の存するに係らず女權伸張論は日々隆盛となり彼處にも此處にも追々と之を激論するものあるに至れり但し其激論は啻に議論のみにて止むとなく大抵其結果を收めて多少實際に女權を伸張せり、故にスウエーデンにては遂に府吏を撰擧するの權及び上議員を撰擧する上等委員を撰擧するの權をば婦女子にも與ふるとあり、アウストリアにては今を距る二十二三年前の頃よりして凡そ女子が府州、國、等に關する公けの撰擧に參與せんとを欲せば則ち撰擧場に己の代となるべき男子の朋友を出して其意見どほりの投票を請ふとを得るの規則を備へ、又羅士亞の如く壓制束縛極りなきように見ゆる所の國に於ても尙ほ數百年來すでに府吏及び州吏を撰擧すべき投票權を女子に與ふるとせり、如此く所々に於て實際に女權を伸張したる處ありと雖も就中ろの議論の尤も喧しくして反對論の亦相應に激烈なるは即ち英國米國の二ヶ所なるべし、英國にては千七百九十一年マリーウオルストンクラフト女史が女は男と同樣の食物を食ひ同樣の刄を以て傷けられ亦同樣の藥を以て療され冬の寒く夏の暑きと毫も男に異らずとの大發明を爲したる以來玆に始て女權論の端緒を開き之より數多の婦人が追々に其伸張策を主張ありたるのみか男子の方にてもスミスよりミルに至るまで少からぬ學者が非常に之を主張されたるが故に女方は彌よ勢を得て或は女權伸張會を起し四方に遊說演說して同志を募り又は長々しき署名捺印の願書を度々政府へ捧呈して今日に至る其勢日に彌よ盛んとこそあれ決して一步を退かず熱心に論辯さるゝ者あり、然るに米國にては尙一層の勇氣を以て之を主張する所の婦人甚だ多し抑も米國と云へるは新開の國にして自然女が世人に尊まるゝの風淺からず特に亦物躰に自由の志想發達して平民主義廣く行はるゝが故に婦人方の元氣は固より我國人等の想像にだも及ばざる程なり先づ禁酒會の女は酒は衞生に害あるのみならず遠くは女權の上に大關係ある者とし

て熱心に禁酒論を述ぶるの傍ら酒屋を打ち毀ち酒藏を倒し破るヿあり又新聞紙上の説論が女を輕蔑したりとして直ちに激烈の書狀を編者に送り其正誤を求るヿあり女權擴張會は何万と云へる會員を四方に所有し或は新聞紙を發行し又は雜誌を印刷し或は演説談論して輿論を動かすヿを勉む故に幾度の失敗に屈せず所々より喧しく述べ立てゝ女子投票權の許可を請願し若し議員中に之を贊成する人あらば則ち甚だ鄭重に之を禮謝し若し議院に於て之に反對の論を述ぶるものあらば則ち手ひどく之を攻擊して遠慮する所なし其勢の猛烈なるは恰も原野の大火の如くなるが故に近年に至りこの投票權を許したる州領は所々に數多之れあるに至りたるなり。

抑も女權伸張論の結果は如此く相應に收納し得たるものと雖も左らばとて輿論の口は尙ほ陰に陽に之に反對するもの多し特に女權を張るに付て最大の妨害物を何ものかと云はゞ吾人の考ふる所は即ち男子が女を尊まざる所の感想なるべしと思はるゝヿなるに此感想は決してかの女權伸張論のみにて全く打破らるゝものにあらず蓋し其多少は固より打破られたり男子も昔よりは多く女方を尊敬するヿゝなれり然れども其尊敬心の起り來つたるは多くは彼の八釜しく述べ立たる口上の議論に因らず反つて實際に於て之を尊まざるを得ざる所の事數多女の一身に現はれ來りたるが故なり成程女子に投票權を與へたるは女方が四方より喧しく議論ありたるの故に因るヿなれども之は只だシブ／＼として其權を與へたりと申すのみに止まる男子の心より喜んで之を差上たり心中に多年わだかまつたる感想を破壞し慚愧後悔して婦人方を尊敬したりと申す如き立派なる且つ溫和なる所の誠心より出でたるにはあらざるが如したゞ／＼迫られて口惜し乍ら論理に打負け止を得ず之を承知したりと申す如き有樣なるべしと察せらるゝものなり。然るに政治上に立つて保守自由の兩黨が政權を爭ふと云はんには此類の爭論は左程見惡きにもあらずと雖も男女が只だ議論上よりして其權を與へ若くは受取つたりと云へるは余りに面白からぬヿと云ふべし凡そ男女は一躰にして双方親睦和樂せずんば此世の幸福は決してあるまじきものなるを斯樣に一方の好まざる所を無理に壓し迫つて漸く地位を得たりと云へるは決して最上の處置とは申されざるものなり。

但し斯く申さばとて吾人は決して所云る彼の女權伸張論を以て無益なるものと云ふにあらず亦之を無効のものと云ふにもあらず之を益あり効能ありとするのみか眞に女權を伸張する

には必要なる一の方法あるべしと信ずるものなり、蓋し男子は數千年來の習慣に染つて自然女方を輕蔑するが故に此の習慣の夢を破らんとには是非活潑の議論を必要す彼のローランド夫人の云へる如く先づ驚天動地の大偉業を爲し男子の心膽を寒からしめ之に戰慄して女性を恐れしむるとも亦隨分に宜しかるべきとあり、然れども吾人が申す所ハ此樣ある處置のみを致し之にて女權伸張の事は最早了れりと心得んにハ非常の不都合あるべしと申すの主意に止まる、必竟之は女の方々の一部分若くは數百万人の女の中の只だ一二人が得て行ふ所の方法にして決して多數一般の女方に出來得る所の事にあらず故に亦た男子の方々の一部分若くは數百万人の男子の中只だ一二の偉丈夫をして感服せしむる所の伸張策にして決して輿論全躰を動し得る所の方法にあらず、左れバ古しローランド夫人は政黨を指揮しジヨアンデアークは千軍の將となり女王エリサベスは絶代の治蹟を擧げハンナモア、ゼヲヂイリヲットの徒は古今獨歩の文章を草し當今フォーセット夫人ウイルラルド老孃の如く堂々たる議論を述べらるゝもの少からずと雖も人見て之を一種の變り物となし以て女流全躰を推すの適例となさず故に此等金玉の事蹟も尚ほ社會人の多數を動かすと能ハざるものあるなり」之を以て吾人は口の上に於て或は筆の上に於て或は力或は財産の上に於て女權を伸張するは女權伸張策中の一ヶ條として固より大切の方法ありと信ずると勿論ありと雖も此は則ち所云る表面の一方として見了るのみ之に副ふ所の更に靜かある更に穩かある更に普通ある所の一箇の方法を併せ行ふとを以て甚だ緊要ならんと信ずるものなり、故に當今女權伸張の議論を爲さるゝ有爲活潑の婦人方は固より日本女權擴張史の中に大書して其功を謝すべき方々ありと雖も其諸君にして若したゞ此表面の一途にのみ力を盡して則ち可なりと思し召されんにハ先つ暫らく飜つて明治十三四年の頃日本全國の所々より國會開設の請願書を元老院の門前に呈出したる當時の騷々しき景況を思ひ起さゝるべからざる也。

ルーテルは法皇を恐れず皇帝を物ともせず大會に會衆を睥睨して一身を犧牲にせり北剛氣凛として寒し然れども其愛子に送りたる文を見れば、溫愛柔和實に掬すべきものあり。昔しピウリタンの人々が英國にあるや亦然り社會に國會に身危難を恐れず斷乎として取て動かず其氣剛强丈夫の膽にみてり然れども其家に歸りてのち親切閑雅なる彼のコロチルハッチンソンの如きもの比々としてこれあり。

● 論說

○東京婦人敎育談話會

帝國大學書記官　永井久一郎　演述　若林玵藏　筆記

私は全躰不辨舌でお分り惡う御坐りませうが元來婦人談話會には因緣がありますから話し申すその因緣といふのは外ではありません昨年十一二月の頃星野君といふ方がお出でにあって本會のお話がありましたとき敎育談話會は至極宜いものであり升併し敎育會とか衞生會とかいふものは處〻に起り升が永續が六ヶ敷く二三度でその會がつぶれて仕舞升から永續の目的がたてば至極宜しからう併し小石川邊で敎育の會をたてるのは六ヶ敷から其方法もどうしたら宜からうと私かつく〳〵お話し申ました。

然る處小石川の幼稚園の山田君木村君其他幹事をして居るお方が御相談にあって敎育談話會がたちまして一月から本月にいたる迄丁度七回會を開きましたがどの會はいつでも小石川の幼稚園のお寺でありました。

そこで最初の敎育談話會の目的は星野君からも承ておりましたが小石川區內の中等以下の者地主差配人の細君を呼び集め子供の敎育に注意させる事をなしたい小石川邊は子供を學校に遣らん者が往々ある又資產ある者でも心付かんで學校へやらん者もあるから地主差配人の細君に敎育の話をすれば宜しからふといふお話でありました。

然る處それがよい都合で私の知らん內に小石川が化けて東京婦人敎育會となりました又ある人の話によればモゥ一トッ大きくして大日本婦人敎育談話會とするといふ說があり升ある程大きくするは結構であり升が今矢田部君かお話にあった通りであり升矢田部君は隨分お口のわるい方であり升が私もその感じがあり升卽唯懇意の者が寄合て敎育上のお話をする方がよろしからふと思ひ升（以下同會及び洋服の事に付ての意見あり略す）

婦人が洋服をきる事は未だ新い事でありますから不案內は勿論であり升がその不案內からして洋服は西洋人がきるから完全無缺の者である衞生上にも適して居ると思ッて摸擬する者もあり升が併し西洋の婦人の服が衞生に害あるとは西洋でも議論があッて隨分窮理しなければならぬとであります底で赤ン坊の生れた時から十一二になるまでの人の洋服に衞生上害のあるお話しを致しませう。

追〻御婦人の洋服が開けて來るに隨ッて二ッか三ッ位の子供に西洋服を着せるは勿論此の先きは赤ン坊にも洋服をきせる

方がありませうがその着物のきせ方に依て躰の害になる事が御坐ります西洋では赤ン坊が生れゝば躰ぢうへグル〳〵切れをまき附けて躰がいがまない様に足が眞直ぐになる様にして寢かして置くが之れはあまりよろしくありませぬ躰を充分動す事が出來ませんから可成赤ン坊のねる時は足などが充分運動の出來る樣にした方がよろしいと西洋の醫者が申しておりますされば西洋風に倣い躰をグル〳〵まきにして置くよりは日本の樣に自由にして置くが宜い。

又赤ン坊にはフラチルを下たにきせて縫目のない方がよろしい縫目があると躰にさわり升始めは二三枚をかさねて着せて一、二週間經た處で一枚を減し次に又一枚を減らして仕舞には一枚にして仕舞がよろしい始め幾重もまいておいたものを一度に取て仕舞と赤ン坊が風をひきます全躰子供は寒さを凌ぐ事が出來ませぬから寒さを凌ぐ樣にするがよろしい躰の熱が外に出ない樣にしおければなりませぬ。

それからすこし大きくなッて來まして五、六ヶ月生長すれば襦袢を着せます襦袢をきせるにも下はフラチルの襦袢が宜いといふ說もある又フラチルは大人がきても痒い樣だから赤ン坊の肌を摩ッて宜しくないから木綿の軟いのを着せるが宜いといふ樣な說もあります。

又子供をねせておくには西洋風に住ふ方なれば寢臺の上にねせて置くでありませうがおッかさんと一緒に寢臺の上に寢せておくのは宜しくありませぬ赤坊の寢る寢臺はころげても落ちない樣に欄干の付てある寢臺があり升からそれへ寢せておくが宜い何故なれば、お母さんと一緒に寢せておけば大人の躰から出る息を子供が吸ても宜くない又ことによると大人が着て居る布團を動かした爲に子供の口の上にあたりそれが爲に子供の息が止まッて死で仕舞ふ事杯もあるから一緒に寢るは宜しくありませぬ又お母さんの寢ぞうが惡るくッて子供が寢臺から落ちて死ぬ杯の事があり升日本では布團の上に寢ますから落ちて死ぬ樣な事はありませんが西洋には往々あり升そうして乳を呑ませる時は一緒にねても宜いが呑ませて仕舞ゑば別にするがよい啻に別にするが宜いのみではありませぬ佛蘭西日耳曼などでは子供を一緒にねせてはならぬといふ法律がある位であります若し子供が寒ければ湯タンポを入れても煉化石を暖めて寢臺の下へいれて遣てもよろしい。

又子供が少し大きくなると高く持ち上げて千艘や万艘をしたり膝の上へのせてコックリ〳〵搖すぶる事がありますが之

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

れは宜しくありませぬ朝日嶽の樣な大きな者が出て來まして私の樣な者をつかまへて千艘や万艘をすれば苦しくッてなりませぬ啻に苦しいのみならず子供は天窓がやわらかい故餘り強く振ると腦病を起す事がありますから大切にしなければなりません歐羅巴邊でも子供は大抵十二才になる迄生きておりません百人の内五十八人シカ十二才になる迄生きておらぬ三才以下の子供は最も餘計に死んで仕舞ます肺病氣管支などで死ぬ者は三才以上の者に多くあります假りに一年間に百人死ぬとすれは七拾五人迄ハ三才以下の子供であります是れハ子供は大事に取り扱はなければならんといふ證據であります。

又子供が大きくなッて着せる洋服は色々の種類があつて流行もありますが子供が可愛らしいと云ふて西洋では胸をあけて着せたり又夏は腕ぎりの着物にして臑のあいておるのを一般の風として子供は風を引かぬ者としており升が之れは宜しくありません子供の足を出したり腕をだしたりしてあるくのは寒いに違いありませぬ然るにそれは流行であるからと云て平氣で遣ておるが甚だよろしくありません矢張海軍の水夫の着る樣な着物を子供にきせるがよろしい胸をあけておいて冷くしてそれが爲めに肺病氣管支がおこりますから胸をあけるにはフラチルの胸當てをするがよろしい幸に日本では足を出したり胸をだしたりしてあるく子供ハありませぬが西洋の流行に熱心して居る方は隨分出しておりますからその摸擬をなさないがよろしい又下へあつき着物をきせるともよろしくありません又車の上で足を毛布などで裹んであるくのもよくありませぬ。

又寒い時子供を外に出しては惡いといふて内にばかりおきますがあれも宜しくありません子供は風の子と昔しからいひますが人間は風の子でありまして空氣で生きておる者でありますから成る可く外へ出しておくがよろしい人間はもと野に居た者で開明になるに隨ひ小屋を造り段々奇麗な家を造り開化になるに隨て煉化などで建てますがそのもとを尋ねれば野にいたのでありますから子供は矢張外へだすがよろしい併し子供には頭巾をきせるのが宜い頸卷は木寺君などは廢する論を唱へ大人は固より廢するがよろしいが子供には頸卷をさせて差支へない陸軍の士官が雨の降る時被る樣な頭巾を子供に被せるがよろしい。

外へ出るに附て日本ではおぶッて出ますがおぶッて出る事ハ大變わるい事でありますが前の私立衛生會の會頭佐野君は熱心し

て日本人の鳩胸や「背ムシ」になるのは子供の時分からおぶッておるからであるといわれました或は左樣かも知れません西洋では決して子供をおぶッてあるきません抱て出る事はありますがそれも抱き樣があります故に日本でもおぶうのはやめるがよろしい隨分市などへ出るとねヱさんなどが赤ン坊をおぶッて首ッ玉をぶら〳〵させて恰もブラ提灯の樣にしてあるきますがあれはよろしくありませぬ子供は首を眞直ぐにすれば宜いが若し十分間右の方に天窓をやッておれば又十分間左の方に天窓をやる樣にしないと片ッポの天窓が大きくなッて仕舞升西洋では車に載せてあるき升が日本でも車に載せてあるくがよい車の腰掛のあるのはわるい故平らなのに載せなければいけない足がぶら〳〵したり脊中がおせたりすると大きくなッて「背ムシ」になるか躰がいがむ樣になります。

それから着物の事でありますが着物はなるべく衞生上に適ッたものでなければなりません澤山金のかゝる着物を拵へない方がよろしい華族とか皇族とかで一度着た着物を捨てる樣にするなればよろしいが洗濯するには金のかゝらん樣にして度〳〵洗濯するのがよろしいなかには立派な着物をきて砂や泥がつくとお母さんに叱られるといふが着物が大事か子供が大事かといふと子供が大事でありませう子供は暴れるが天性でありから可成あばれさせるが宜い暴ばれさせるには着物の汚れるのを厭てはなりません。

又子供の肌に着ける者の色の事でありますが襦袢などは白がよろしい何故なれば白はよごれめが直ぐわかり升なかには儉約な人は白はよごれていけないと云ッて外の色の付いたのを着せますがあれは宜しくありません白い色なればよごれ目が知れますから度々洗濯するとになります又當今は唐縮緬フランチル杯を襦袢にきる樣になりましたが赤い唐縮緬には砒石の阿仁燐などが入ておりますから甚だケンノンで御坐りますそれが爲めに躰のはれた事が御坐ります先達龍動の有名なる「スターチン」といふ人が試驗の爲め赤い靴足袋を穿いた處がそれが爲に足へ腫物が出來て終にろの腫物が躰へ迄上ッて來たといふ事でありまず日本の藍などは害がありませぬが西洋の色は害があります殊に害のあるのは色がよろしいから可成赤い色の物は躰へ直接に附けない樣にしなければ甚だケンノンであると思ひ升。

それから婦人が大人になッてからの事でありますがこれも西洋に論のある事でおなかにあてる「コルセット」をかたくしめる

と害があるといふ事でありますその害は十二、三から十四、五迄大人にあらん内にかたくしめると腹が大きくならんで不具になります啻に不具になる而已ならず腹の内にあるものが生長が出來ず殊に子宮の方に關係をもッて難産する事があります尚ほそれのみあらずかたくしめた爲に卒倒した事があります流行なればコルセットをキュッ〳〵としめて出る事がありますから餘程注意しなければなりませぬ大きな婦人でも夜會に出るときに肌を出してゐるとは儀式だか何んだか西洋ではやッてをりますこれは可成やめなければなりませぬ子供の時から肌を出せば大人になッてもやりたがるから子供の内にやめなければならんと或衞生熱心家が申されました。

それから靴の話しでありますが靴も可成先きの尖ッた靴を穿き又踵の極て尖がつた靴を穿く方がありますがこれは天然の指が重りあッて仕舞ひ又踵の處へ靴の踵が行かずして流行の爲めに踵を小さくする害がありますそれから又こうゆう細い靴をはく者もありますが西洋でも皆此靴ばかり穿くのではありません役者とか藝者とか外國公使の細君とか云ふ人がはくのであります然るに日本のある學校では此靴をはいて歩き升がそれはよろしくありませぬ殊に西洋人に見られては恥かしい事でありますからこれは止めなければなりません靴は足の格好になッてをるのがよろしい靴の先きの尖たのはよろしくないからあたりまゑの足の形に拵へなければなりません靴の内側のすぢは可成眞直にある樣にするがよろしい譬へば左りの足なれば則ち右側が眞直にしてなければなりません又子供の足は軟かでありましてその靴なりになり升から餘程注意しなければなりませぬ又一とつ靴を始終穿くのはよろしくありません靴に癖がつくと靴の癖の通りに足がなッて仕舞うから一日おきに靴をとりかへなければなりませぬ。

又御子供衆の下着は一週間に是非二三度洗はなければなりませぬ洗濯屋へやらんでも内で「シャボン」と水で洗えば宜い故是非一週間に二三度は洗う樣に仕度とおもひ升。

今日はまことに詰まらない話しを致しましたが聊かにても諸君のお爲になるとがあれば幸であります。

Maiden! with the meek, brown eyes
In whose orbs a shadow lies
Like the dusk in evening skies!
....
Standing, with reluctant feet,
Where the brook and river meet
Womanhood and childhood fleet!

Longfellow.

●叢話

○(特別寄書)

賢女の德義　(其一)

鹿谷山人

箴言といふは人の言行に付きて善き模範を立て親切ある敎訓を與へたる書なり全篇三十一章あるが最後の章に至り賢女の性質を摘示して世の女子を敎へ諭せり曰く

誰か賢女に遇ふことを得んや其價値は琅玕よりも貴とし其夫の心堅く之に依賴して產業の乏しからざるを期すべく其世にあらん限り夫に善を行ひて毫も害を與ふること無からん生平羊毛と枲を尋ね取り之を以て手に操作くことを喜ぶ之を商賈の舟の遠き國より糧を運ぶに比ふべし賢女朝未明に起き出でゝ家人に食物を與へ婢に其需むる所を與ふ詳かに田畝の利害を察して之を買ひ其手にて獲たるものを以て葡萄園を樹ゆ力を以て腰を束ね其臂は頗る健なり其營ふ所の貨物を精撰し燈火は終夜熄ることなし手を籰に懸け指を紡車に置くまた手を伸べて困苦の人を救ひ貧しき人を賑はす賢女は降雪に遭ふて其家の事を憂うるを要せず蓋は家人の皆な二重の衣を着得るに由る賢女己のために衾を製る其衣は絹と紫の布あり良人は邑門(公會を云ふ)にて人に識られ國の老輩と偕に座す賢女口を啓けば智を以てし其舌には仁愛の法あり能く家人の途(平素の行狀)を監督して怠惰の餅を食はざるなり其子起て之を祝し其夫また讃めて賢妻と稱す女子にして善を行ふもの少からず然れども上文に記せる若きものを最も善しとす艶は僞り美は虛なり唯耶和華を畏敬するの女子必らず讃せらるべし宜しく其手に成れるものを之に與へ其工作の爲に之を邑門に讃美すべき也

誰か賢女に遇ふことを得んやとは古へより世の婦女子にして其德を積み才を養ひて賢女と稱せらるべきもの多からざるを示せるものならん賢女の出る極めて稀れなり之を寶玉に比ぶれば稀世の珍奇と云はざるを得ず故に琅玕よりも貴とし とは云へるなり蓋し賢女は世の至寶にして價値の大なる之に匹敵すべきものある可らず世路艱難人心反覆の生活を爲す間に良人の心堅く之に依賴するを得べし賢女よ賢女爾は終生良人の益を爲して毫も害を起さゞるものなり爾は良人の「適當しき援助」たるに愧ぢざるものなり如何なる婦人を賢女と爲すや賢女の德は何如なるものなるべき乎賢女の德大いなり其資格一にして足らずといへども今ま箴言の示せる順序に順がつて其一端を述ぶべし

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

凡そ賢女たるものは勤勞を忌み嫌ふことなし勤勞には手の工作を爲して朝夕の烟を揚ぐる貧家にのみ在るべきことに非ず實に貴賤の差別なく賢女たらん人に欠く可らざる所なり風流社會に奔走する貴婦人等の間には務めて勤勞を避けざれば上等なる女子たるに愧づべしと思ふ若き一種の習僻あり此輩は手足を勞することを蛇蝎のやうに惡み化粧衣裳に非れば談笑に時を移し然らざれば歌舞音曲若くは遊覽宴會に忙はしく只だ月前の雲を悼みてのみ世を送らんと欲す之を幼き時より足を壓し縮むるとは聞えたる彼の支那の貴婦人に較ぶれば其趣は異るに似たれど精神は實に一轍に出づるものと謂ふべきなり亦笑止の至にあらずや思ふに風流優美は實に望ましきことなり野鄙粗暴は婦人の最も厭ふべき所なれど或る女子は年頃になるも尚ほ嬰兒の如く軟々として世を送り手足の力尋常ならずと思はるゝを畏ぢ恐れ己れが家に在りて勤勞する容を人に知らるゝときは赧然として面を明らめ恰も偷人の發露されたるに異ならず此の箴言を書きたる時代は文明工藝の度未だ高尚なる位に進まず經濟學者の所云る分業の法行はれずして飲食衣服は皆各人の自ら製りだす所なりしを以て賢女の勤勞は羊毛を以て織物を作るに非れば紡車を操りて綿を繰り糸を紡む等の事にてありき天さかる鄙にありては今日も尚ほ斯の如き狀體を見るならん然れども都會に於ては最早かゝる勤勞を必要とせず昔堅氣の老婆が今日の時勢をわきまへ知らず其嫁を強ゐて無用の勤勞に服せしめんと欲するが如きは吾人の取らざる所なり人性は進步有樣に應じて隨分屈すべき筈のものなれば時機を察して變通の道を取らざる可らず世の婦人等この分限を考へ性質を察し必要を計りなば上下の差別なく必らず勤勞の方法を見出すことあらん家に勤勞するの婦人少き社會は停滯不振幸福少きの社會なり然れば本文に見ゆる如く朝未明に起き出でゝ家人に食物を與へ指を紡車に懸け勤勞を快しとするを賢女たるに欠くべからざる徳義なりとす家事の整頓も平和も快樂も多くは賢女の勤勞に由るものなり

○兒育て草

日頃偶ま米國婦人アベリ氏の著書を閱して左の一節を得たりしかは譯して貴社に寄す乞採擇あれ　尾崎春耕譯

小兒を右に左に孰れにも育て爲さんとせば汝先づ自ら爲して示すべし小兒の欲せざる處は自ら避くべく安全にして誤なき例を示して導くべし小兒の習行に何事か缺點ありと見ば其原因を穿鑿して己れ自ら其缺點を傳へしにはあらざるや否を顧

みるべし

小兒に對して腹立しく思ふことあるも避け得べき丈けハ叱責せざるを宜しとす父母教師にして沈着ならざる時ハ威嚴を減じ小兒に惡例を殘すものあり小兒の最も激したる時ハ意見を感ぜざる者あり然れども餘り何時も意見を緩かにするハ宜しからず意見を加ふるハ事毎にして可なり決して幾箇をも疊み置きて責む可らず小兒の信服する迄充分意見を加ふるハ可なれども倦怠の念を生ぜしめざるに注意すべし實々止むを得ざる手段の外他の人に小兒の過失を語るべからず斯てハ小兒の感得力を弱くして責者の信用を失ふものなり小兒同志にハ勝利の競爭心を起さしめよ過失の意義を說明かすよりも寧ろ罪惡者の擧動を怨惡するの念を起さしむべし

小兒の行狀言語をして不敬不正に涉らしむること勿れ庭園の草木を培養するよりも親愛を耕作するに深く意を用ひよ親愛なる者ハ一家團欒の間に大なる快樂を與ふる者なり懦弱に陷らざる樣注意せよ溫順と親切の外家内に流行せしめざれ長上を尊敬することを敎へよ決して宗敎を非毀し又ハ暴言を放たしむる勿れ自身ハ更なり小兒にも故なく寺院に欠參せしめざれ小兒にハ課業を附して惡風に染むの時間を失ハしめよ

一家を治むるの城壁ハ宗敎と道德より大なるハなし是を以て繁榮幸福を招くべきなり一家の趣意ハ小兒の不孝不順を醫するより他に大なる者ハあらじ一家に不孝の小兒を見るが如き悲しき厭ふべき者ハあらじ幼時ハ明鏡の如く其前面に遮り來るものハ直に接寫して善惡を擇まず汚穢賤陋ある志想を起すこと恰かも明皎々たる錬鐵の上に水を走らすが如く追及せんとするも其功ハあらず

小兒とハ幼き男子ハ女を指すなり好し小兒にハ小兒たるの擧動を許すも之を扱ふ者ハ大人の心を以て遇せざるべからず小兒ハ大人の言語氣轉擧動を能く熟視す然り其衣服に就ても感覺を起すことを記せよ

半信半疑即ち全躰を解し得ざるに小兒を匡正する勿れ又教授の間に戯れて小兒の感覺を紊す勿れ

小兒の眼前にてハ每に穩かに愉快に腹藏なきを要す但言語擧動に粗暴戯謔を示す勿れ小兒の惡事を行ひし時ハ甘言以て止むる勿れ命令したる事ハ完全せしめ小兒より請求する所我より許容するの外ハ決して中途にして廢せしめざれ

小兒の群居せる中にて一人を嚴く譏むべからず又嘲笑すべからず只明かに其過失を擧けて可なり

小兒の過失を見て短氣を發し怒氣を起す勿れ

小兒に向て汝の言ふ處は信じ難しといふ勿れ又疑を挾む勿れ小兒の語に疑あらは畜置きて待つへし早晩其眞僞判然すべし小兒の依賴する信用を決して阻む勿れ汝の管理中に在るも又は約束よてあるも

小兒より言はんとする時は速かに應じて二度聲を掛けしめざれ是れ汝か小兒に言はんとする時小兒をして速かに應ぜしむるとを敎ゆる者あり

食卓に就ては小兒に適當なる作法を行はしめ好まざるに强ひて食を勸め又斷りなく椅子を離れしむる勿れ

小兒の病蓐にある時は放恣ならしむるよりも寧ろ少く牽束を用ゆるを良とす

小兒十歳までは復得べからざる黄金時期とす即ち播種の時節なり收穫の善惡は一に此期に在て存せり

家庭にあると家外に遊ぶと行狀に二法なきを要す只穩和なる行狀を是れ望むべし

守錢奴を鐵鎖に繋き心胸を寒からしむる吝嗇は決して一家中に生ぜしめざれ小兒に敎ゆる其贈賜品及ひ快樂を兄弟其他に頒つべき義務あると且つ親愛を專にすべきとを以てせよ不順不孝は害惡の最も大なる者なるとを感ぜしめよ小兒不順あれは其書籍其他所持品を預奪し一室に幽し彼をして不良を恣にする時は凡て斯の如く歡樂を失ふ者なりとの感覺を起さしめよ彼速に過を悔ゆべし

○批評　（第二十六回）

(32).實地應用家計簿記法　（大本一册（六十四頁）定價四十錢　發兌所東京彌左衛門町經濟雜誌社）

此書は藤尾錄郎氏が編著ありたるものにて專ら婦女子に家計簿記の大意を敎へ且つ日記帳元帳其外の記入方を信切に例示したるものあり吾人は兼て此類の書なきを憂ひ知人と相計りて其著作に掛念したるが今ま之を得て喜にたへず凡そ一家內の會計は細君之を掌り良人をして內に顧るの煩を避けしめ以て其力を外に專にせしむるを要す然るに我國の女方は大抵勘定に精しからざるを以て反て人に誇るが如き趣あるを以て良人も亦安んじて此に家計を托するを得ず內外の理濟一身に集りて不愉快極りなきは諸人の經驗する所ならん故に此より各女學校に於ては算數の學を張ると共に亦た家計簿記法の一科を加へ必ず此が記入の方法を敎授するを要す此際本書の如き編著の躰裁固より未だ完を得ざるの點尠らずと雖も而もよく斯途に對して需に應ずるに足るものならん歟

(33) 入圖 毛糸編物法　（中本一册（六十九頁）別價二十五錢發兌所大坂心齋橋北詰駸々堂）

此書は駒木根貫一郎氏が編輯ありたるものにて諸種の連鎖あみ方を初として肩懸編み方に至るまで二十六章中に數多の編物法を説き且つ圖を入て丁寧に解明せり凡そ此類の書は中々容易に了解しがたきものあるに文章何處か足らざるように覺へ且つ活字の誤等多きは一の遺憾あるべし但し別にまとまりたる此類の譯書なく特に女學雜誌の讀者に限り別價にて賣拂わるゝと聞けバ一本を置て靜に參看し工夫あらバ宜らん

(34) 歐米男女禮法　（小本一册（九十一頁）定價二十錢發兌所東京丸善中西屋書店）

此書ハ原彌一郎氏が米國センツル氏の著を反譯して且つ東京獨立新聞に記載したる西洋禮法を附錄ありたるものあり紹介逍遥婚姻葬禮等の儀式こそあけれ其外の禮儀は簡易明白に説明して善く其大躰を盡したり

(35) 婚姻論　（中本一册（二百四十頁）定價廿五錢發兌所東京日吉町女學雜誌社）

此書は横山雅男氏の著にして弊社より出版したるものあり全卷を二十八章に分ち總論、婚姻の定義、婚姻ハ人類の天性、婚姻の効力、婚姻數は社會の盛衰に因て增減す、早婚、晩婚、私婚、血族婚、濫婚、離婚、正婚、結婚年齡、結婚年齡の差、男女共諾法、男女互に撰ぶ事、結婚の境界、離婚、結論等を論述し凡そ婚姻に關するものハ大小となく悉く網羅し例證を西洋支那日本に取り根據をスタチスチックに安んじたるものあり但し弊社出版の書なるが故に玆に言ハず例により其批評を讀者に一任す

● 佳傳

○サラ、マーテン囚人を敎育したる事

自ら守る所ろ斯く淸潔あれバ人に對するの處置も亦潔白なり獄の內外傳道の爲にとて多少の寄附をも爲したる人あれば其金の遣ひ途ハ一々細密に記錄してその帳簿はヤーモウスの書籍館に差出し公衆の覽に供へたりとぞ言ふあり

マーテン女は斯くして囚人の敎育に盡力すると凡そ十二年半計まして其體追々に弱り行きたるが其苦さをも忍びて何ほ日々怠りあく獄內に行通ひけるうち千八百四十三年の四月十七日と云へる日よりハ全く閉ち込めて打伏する程の大病とハあれり然るに病中平安沈着にして少かだも騷ぎたる樣なし時に附添ひたる老女が何如あるものをか御讀きかせ侍らんと言へりしに只だ贊美し玉へとは答へぬ又或る時一人の友達參りて君は常にかく平和に居たまへるや時としてハ神の御顔をかく

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

して其子供等に見せしめざる雲の出ることも之れ無く候やと問ひたりしにマーチン女は強き聲音と元氣ある身態して言へるようは「否な神は決して其顔をかくし玉はず神と吾等との間に雲を起すは必竟吾々の罪にて決して神の御行にはあらず神は常も愛し常に光り振り反へり玉ふ程の影も變もあらず吾尊き救主吾が尤も愛し奉る主は常に近く居ます妾はその御優しき御助ある愛をば確に證しす妾は丈夫なるとき常に此等の事を物語りたりしが其時は今ま病の身となりてより思ひ得たる程の半をも承知いたさゞりしと答へぬ斯てその平和なる思に詠み出でたる歌は

かゝやける、てんの門にと、ちかよりて、かぎりなき世の、おかしより、あがるゝひかり、手にぞうけなん。

其年の十月十五日遂に事畢へて永き眠に就きぬ其文箱の中より取出せるものに自ら葬式の折の説教文をば認めたるを見出したり其語に余は吾が救主の倚ほ居ますとを知り終りの日に其の再び地の上に立ち玉はんとを知る故に吾が此體はたとひ蛆蟲の爲に蝕ひ破らるゝとも後に新なる肉を得て復た神を見るべきとを信ずとなり日附は千八百四十三年六月十日とありて下に此文章は妾が死したる後の安息日に親しき朋友代りて獄内にて朗讀ありたしと記したり嗚呼此の一語や即ちマーチン女最後の遺物にして獄内の囚人を刺と亦た此よりも切なるはあらざりしなるべし

〇木村鐙子の傳の序

編者このごろ故木村鐙子の傳をつゞれり近き内に公けにして世に示すべきが今玆に其序二つを掲ぐ一は勝安房伯の作にて他は適堂學人の草せられたるものなり

おのれ年ころ鐙子刀自はたゞ人ならじと潜に思ひたりしにはたせる哉其こゝろの雄々しくて艱難にあひてもいさゝかたわむとなく彌よ勵れたるは實に世に有難き刀自なりけり常に能く夫を助けて終始其志をとげしめたるなむまた感ずるに餘りありけるひとゝせ夫の君亞米利加に旅立せられて十年あまりの月日をうちすくして彼の國より歸たりし後ともに敎の道を傳へ學校を開らき數多の女子等を敎られたるにいくほどもなくその夏にはかに病にかゝり世を去り給ぬ」あはれ此刀自よ多くの年月身を苦めたる而已ならず其夫の志をさへとげしめられしはさるとにて世に長く在さばいか計り力を盡されなむと思ふに附けいとくちをしとぞ思ふされど其設たゝれたりし學校は彌盛りにさかりて其敎を受くる女子も年に月に加は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り行くそうれしき今哉刀自の行實くはしくものせしふみ出でて増す刀自の功を思ふ人さはに成行むことを昔を忍ぶ思ひ出になむ　勝安房誌

過にし人の行爲によりて其智愚賢不肖を知らんと欲せは先つ當時の形勢如何を考へすはあるべからす男尊女卑の社會にあり弓箭とる家に生長たる女流には憂を粧ひて喜とし苦を嘗て娯とするの慣あり鋒にまじれる月影に別を惜みても顔容にあらはさす袂にふり來る秋の霜の消る命も夫の爲と思ひつめし其の風情を鹿鳴の宴罷んで蹈舞に更を闌らし畫樓の春暖よして風琴に戀情を說く婀娜しき境界の婦人に比較て之を評論せは楠公の死を評して徒死とするの惑やあらん左れは明治の婦人は明治の時勢によりて之を評し天保嘉永の婦人は又其の情况にしたがひて之を論じてこそ公平の見とはいふべけれ木村鐙子は未開の世に生長て其受る所の教育も明治開進の教にあらす斯るが故よ當初その身に行ひとりたる事多は貧苦流離の間にありて婦徳を全し彈丸雨降の際に在りて夫を助けたるにあり其明治の世にありては老將の戰袍を脱て儒衣を着し如く戰國未開の習慣を抛て婦人矯風の主唱となり女子教育を率先し仔々として惰らす死にいたりて後に止みぬ嗚呼鐙子のごときは亂る〻世の女丈夫治れる世の淑女とやいはまし此はその古人も最難しとせる所なり况や白梅の雪に包れて其の香愈ゆかしく青柳の風に揉れて其の枝折る〻事なき風趣あるかの婦人の貞操苦節は明治女流の師表たるに足ぬへし乞ふ此卷をひもとくもの輕々看過する事なかれ　適堂學人誌

● 小說

○善惡の岐(特別寄書)　中嶋粧園女史

一回　野蠻とも云へ未開とも云へ實に太平の里なるべし

播磨の國須磨明石とはその名世に隱れなく詩人歌客の杖曳て舊所名跡を探くるものも少なからすとなんこの須磨を數里隔て〻一村あり今も何と名くる處なるか六七人家の斷續していと寂寥に見へしかも倚青山の後白水の淮には村人の住家もありて中〻六七軒家よは非るべし萬疊の青山翠黛かに一帶の清流聲靜かに村人も皆朴質にて富貴名利の何物たるを知らず且世途の危難も知らざれば夜は戶を閉ずして一家團欒破窓に袒る〻月影に枕風高く臥まろぶ心の中の涼しきは野蠻とも云へ未開とも云へ實に羨しき太平の里なるべし然かはあれど雖定むるとなく自ら貴賤上下の別ありてこ〻に尤とも村人の尊

敬を受て旦那と呼ぶもあれば先生と呼ぶもありて村人のしらざる事は皆問ひあどしてその博識ゐ感服し村中の太陽とも仰き崇ひ村人の寄集ふ時にはいつも感服の話しをなしにける一日の事にあん例の村人等はある家の爐りの畔りに坐を占つゝ扨言ひ出す樣かの物識の先生は恰度指折數は今を去る二十二年前弘化三年に忘れもせぬがわが冢子太郎作の生れし小春も過き去りて霜枯れ時の事にそあるこの村に見馴れぬ人の二人つれ徘徊する樣いかにも怪しく其時おれは前の流にて芋洗つゝ二人の姿を見扨は色に迷ふてのかけ落には非るか見れは年のころ三十四五の男と二十五六の婦人この田舍には迚も見なれぬ顔貌その裝ひも何人のはてなるかその共に語る樣はお武士にしてはもの和かに言葉優くお公家樣にしてハ齒も白く且徼たかふる摸樣もなく何はあれ世の人柄とも言べき人なるへしと見て居しにその客人はしばし立停りそなたはこの村の人ならすやお妨なくはすこし問ひたき事あり許し給ふや如何にもおれは答て如何なるお用かは志らざれと幸ひあれなるは私共の住家にて茅屋の座をもいとはせ給はねはあれにて緩息はせ給と伴ひつゝそれより何用かと問はそはそれ其時皆の衆と相談せしかの明寺の事にてありし皆の衆は如何言わんと獨心に案じたりと言時傍の一人か左樣さあの時新兵衛老爺があの寺も今は御住持樣もなく蜘蛛の巣や草花々となつたれと一體此村には不相應しき立派の建物昔しより誰のものと言てもなく村の物となり來れり其内よきお住持もあれはと老人等がよれば語ふ事も度々なるに今それをどこの馬の骨か分りもせぬ者に貸し渡すなどゝは以ての外とか何とか繰言ばかり言出してうけひくへくも見へさりしかそこが多勢に無勢終にいはなしもまとまつた事だがおもへは幾ら醒さ坊主のために疊がへだの屋根直しだのと三日に揭す寄附金ねだりから見れは遙かに勝るさ、そうとも本に貴公の言通りあゝゆう人の此村におるはなか〳〵重寶だどの樣に六かしき事かあるとも太丈夫だ第一他村に對して肩はゞ廣き心地するには非ずやおうそうだ〳〵と異口同音にほめそやさぬものそあらさりし

○薔薇の香

第四回　獨樂の愛　　　　月の舍　しのぶ

日既に西に入て仰いで天の鏡に映じ夕雲やうやく東に起りて歩々幕を引く見渡せば常總の遠景髣髴糢糊の間に沒して近く漸く砲臺の影暗きを認め水は暫く名殘の光を衣て錦の路を敷きたるがイヨ〳〵黑くなりて波ます〳〵白し此時すでに中天

に懸つたる新月始て面衣を脱すれば研き得たる銀色凍れるが如く上天の榮光只だ個の眉形の窓中より洩れ來る」兹に芝浦の岸に立つて景色の移り行くを眺るものありヒタ〳〵と寄せ來る千頃の波ドゥと磯邊に衝突して玉を散らせバ思ハず跡しざりして斜に月を觀るわれ其容貌を窺ふに思ハざりき此れ妙齡の佳人ありけり其裝ハ黒の淡泊なる洋服に輕やかなるボンチットを頂き容姿沈着にして浮きたる樣を見せず其顔は月光に照りて雪の如く白く少かに蒼味を帶びて最とさびし氣なる風あり然れども其目鏡を掛けたる兩眼に一點を正視して久しくヂット見つむるが如き双の眉キと定まつて動かず口の結び甚だ確かにして忍ぶ所あるが如きは一目して其の文藝に執心の女學生たることを示す

靜かに傍への石に腰うち懸けて漫に海面を見やれば漁火明滅して波上に出沒し夜風そよ〳〵と吹き渡つて春草ともに戯る

女學生は嗟嘆や丶久うして獨り言をや言ふなるべし

ドゥシテモ女の方々がモソット自ら重んずると言ふような風に爲りませんでは兎ても人から尊敬を受るとは出來ませんよ。第一自分から人間なみの者でないと思つて居ますものを人が尊うとまないのは勿論の事ですハ。イクラ學文を仕ましたつて先づ見識と云ふものがなけれバ何になりますものか。ウチの學校でそうですチー御一處に之から働かうと思ひますのは……下の級には隨分多いようですがナゼ私の級にはあんな方ばかしでせう。波羅さんは毎日着物の改革バかし……内海さんはまたろく〳〵物も仰しやらん。アア人と云ふものは頼めないものでそしてほんとうの朋友と云ふものはありませんチー……

然アし凡そ此世にかう人間が生れた以上は何も互に不平バかし言ひ合つて苦勞をせいとの譯ではありますまい。ホントゥはとも〳〵に喜び睦んで樂しく暮らす筈のものでせうガ……それでも斯くバかし……かくばかり僞はり多き世の中に子を思ふのみぞ誠なりけりカ…すると親が子を思ふと言ふより外に誠はない。親子の間だけしか樂がありませんかチ…お父さまもおッ母さんも皆んなお亡なりなさるし兄弟と言つて一人もなし…私がこんなに親睦……交際……それからあの氣樂な間柄の交などと言ふ味を知りませんのは實に之が爲めでせう…余り早う成人になつたのでせう…チーイヤダ…チー…イヤダ…チー…

ゴウ〳〵とひゞき渡る聲シヤッ〳〵と吹く煙早くも近づき來

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

りて轟然一過す。ハット立上りたる女學生はまた一轉して走り行く汽車の跡を見やる白煙異一文字に路を遺て音コウ〳〵たり心中空にして何物もなし茫然として其儘に立つたるがチリリ〳〵と身をひねりて先づ月を眛め次に海面を望み一足二足あゆみまゐりて亦た元の如く石の上に腰かけぬ

まことにホームと言ふものが之が神の賚です先づ一家族が西洋のホームです一教會が信者のホームです此から一國がホームと爲つて終には天下が一のホームと爲ります。それにしてもわが國にはまだホームと言ふべき家もありませんアヽ、ス井ート、ホーム……ス井ート、ホーム……ス井ート、ホームには先づ夫婦の間柄が清潔でなけれバありませんチー夫婦と云へバ婚姻はそも〳〵どうするものでせうか。今日のヲセヲスの議論……チカヤーの議論どちらも理屈があるようです然しどちらにしても今日の婚姻は早過るに違いありません。漸く學校を卒業して……イエ卒業をまだ爲ないうちから早や定めて居ますね。どうしてあんなとで安心が出來るでせう…そして男の方の心もよく分りません內に…どうして一度や二度で分りますものかチ…今の方々は親の壓制で約束をさせるのは惡いなどと仰しやるがアンナ輕々しい撰びようならバヤッパ親御の御きめなさる方が確かですね。自分の情慾の奴隸になるよりは兩親の仰ることに從う方がまだましですね…然しね親と言ふものハ信切すぎて詰らない方に目をつけてくれますから……イケませんよ第一合性がよく合ひませんでは何んな善い人だからつてハッペー(幸)がありますものか去年卒業なすつたツウ〳〵黒川さんや吉田さんはいまどうなすつてるだらうお可愛そうですチー。ケレドモ矢張アレハあの方々がウイーキ(弱い)だからですね一生に關れるとですものをあの時に十分反對なさると好かつたのです五六年も勉強して相應の智識があるのですものをそんなに子供のように壓制をされる筈はありませんね…尤も年頃になつて片付かないと母親の心配は大變なものですそうな…ソウでせうチー。

私はどうしても獨立したいと思つて居ましたが兩親もないし兄弟もないと思ふと大變にさみしくつてたまりませんね然しコレが即ちウイーキの出處です。クイン、エリサベス…女の醫者……「ミス」…「ミセス」ハンナモアです弱くつてなるものですか…弱くつて……どうしませう。

ピウー、ヒウー、ヒー、ピー、ヒウー、ヒー、ピー、ヒ。耳を立て

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ゝ聽く遙かに弄する所の笛の音なり

ア、モー、歸りませう大層ながくなりました。笛と言ふものは善いものですチー。先づ日本の樂器ではあれでせう。然し尺八の方が大きいようで一層壯んです。尤も日本の音樂は皆んなカキクケコで角ばかりです。寒い、つめたい、ひや、かな情を起します。温かな、春の樣な處がありません。どうも西洋の音樂は悉く雄壯の音色を含んで居ます。私なんぞは西洋のでなければいよ〳〵氣か沈んでいけませんよ…畫でもろうですチー、文人畫にホームはありませんハ………、名殘惜し氣に立上つて靜々と歩み行くに

レット、ザウ、オ…ルド、デースパイス、アーンド、リーブ、ミー。ゼイ、ハブ、レーフト、マイ、セイービヂル、ツー

唱歌の聲最早近きぬ思はず立留つて見てあれば脊廣の洋服輕やかにりゝしく凸高の帽子正しくして嚴めし靴の音叢の中に沒して笛を揮うひゞき風に鳴る口の柏子に合はせて爽快らしう歩み來る一個の少年なり女學生は忙はしく歩行を始めて傍目もせず急に通り過す。すれ違ひさまに少年フット赧め二三歩さきに體を植へて身をひねり暫らく立つて目送したり

Oh, I'll whisper then　In the cool night air,
What I dare not in the broad daylight.　Shelley.

●寄書

○婦人は男子を助るやの試驗

此頃英人「アンダウード」氏編纂の英國大家文章を讀みて彼の文學史中有名なる「アヂソン」氏の主筆に係る「スペクテートル」雜誌に至りしに文中女流社會に關するいと面白き談ありたれば譯して以同好淑媛諸君の一粲に供す　那珂璋子稿

一千七百十二年十月二日刊行「スペクテートル」第四百九十九號

吾が友「ウヰルリヤム、ホニーコンム」氏曾て余に謂へるやう余は半年以前より「スペクテートル」雜誌に投書し己が筆力を試みんと希望し居れは、不日其著作一二を投寄することあらんと、而して今朝同人の許より左の手紙を得たり依て余は唯二三の誤字を訂正し直ちに之を本紙に掲載して讀者の瀏覽に供す、

「スペクテートル」記者足下、一昨夜の事なりしか、余はいと親密の友人なる妙齡の男女と打交り、足下の草せる琴瑟和樂と題する文に就き彼此批評し合へり、然るに玆に一塲の議論こそ湧出たり、そは凡そ世の中に不貞の妻よりは寧ろ不實の夫の方多きには非らざるやとの疑問に關して互に舌戰を開きし事なり、婦人贔負の一紳士は機會こそ好けれと、彼の有名なる日耳曼に於ての圍城の談を語れり、其後余己が所持せる歷史大全を讀しに其中に此談を見出せり、今其談を記さんに日耳曼帝婚禮都三世曾てバヽリア侯デルハスを過斯堡府に圍みけるとき、城中の婦人到底此府の維持する能はさるを知り、婚禮都に請願しけるやう、妾等は各〻己が持ち運べる丈を將て此府を立返くことを許し玉へと、婚禮都は手弱き婦人のことなれば何程の事かあると思ひ、直に之を許可しける、然るに婦人等は、皆各〻夫を己が脊に負ふて出で來りければ、婚禮都は之を見て驚嘆斜ならず、覺へず感涙を流しける而して其婦人等の夫を懷ふの切なるを賞譽し、遂に其夫を各婦人に與へ併せて巴瓦里侯をも赦しけるとぞ、

來會の婦人等は、此談にて十分味方の勝利を得しを見て欣喜止むる能はず、衆に向ひ尋ぬるには英國中、何處の都會の男子にても以前の談しと同樣の塲合に臨みしなれば必ず其妻を負ふて城を立出づるや、寧ろ己が厄介者を取退くるには好機會とて歡ばんや實際如何思召ぞと、男子贔負なる、余が親友「トム、ダペルウット」氏は之に答へて、斯る塲合に際しては、男は女より腕力も强く、又女を脊負は男子よりはいと輕ければ、若し男子にして其妻を負ひ出さゞる如きあらば、是れ實に大丈夫の一大恥辱なりと云れたり、此類の議論に時を移しもはや飽を生しければ、夫れより難問及ひ命令と云ふ昔るきいと面白ろき遊戲を始め、余は戲中の王となされたるや直に婦人達に命して淑媛各位が若し一紳士が前に述べられたる談しと同樣に、圍城の中に在りて彼の貞實なる婦人達が爲せしと同じ嘆願を許されたる塲合に逢ひ玉へば、如何なる品物を持ち出し城内を立退るゝや先づ何物を助けたきと考へらるゝやと謂ひければ、此に對して種々面白しき答ありける、斯る樂しき談しを爲したれば、余は臥房に入るまで猶愉快を感じ、精神恍乎として忘るゝ能はず、已に睡りに就きて少時目睡たる夢に、、、、、、、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

其名は何と知らねども英國に一都ありけるが四面皆敵に取圍まれ城中の人々は今は餘儀なくも敵に宥恕を乞ふ迄困難に陥れり、敵の將帥は丁度敵の邊斯堡の圍城の如く、婦人達に唯ゝ己が持ち運べる丈の荷物を以て城を立退く事を許したり、斯くて迹に城門を開きければ、婦人の行列陸續踵を接し皆其背上にはいと重き荷物を負ひ出て來れり、余は敵の陣營内にて右の婦人等の集會所に充てたる少し小丘き所に上りて一々其負ひ來りしものゝ何なるやを熟視しける、第一着の婦人は其肩上にいと大なる嚢を擔ひ如何にも大切に之を地上に下したり、余は其嚢口を開けば定めて戀しき夫の飛出づる事ならんと思へしにさはあらで數多の磁器其中より出てたり、其次に着せしものは、其體裁初めの婦人よりもちと宜き樣に見へて、其脊に好男子を負ひければ余は、思はず夫婦の情愛さこそとあらめと頻りに嘆賞しけるが然るに其負ひ來りし男は何んぞ圖らん其情夫にして己が夫は吾家に殘し來りしなりとは、第三の婦人は遙かに望めば小さき皺寄たる顔の其肩上に見ヘつ隠れつするものありければ、是れ必ず其夫ならんとし思へしに、漸く近づき之を地上に下しつゝ、「おさる」やと云ひしゆへ、能く之を見れば其狒猿なるを知れり、第四の者は骨牌を入れたる大きなる風呂敷包を運び、第五着の者は小さき犬を誘れ來れり、何んとなればかの夫は非常に魁偉なる人也ければ犬を誘れ來る方力を勞する少なかるへしと思ひしなり、之に繼で來るものは高利貸を業とする者の妻なるが、金貨を入れたる財嚢を脊負ひけり、其婦人の謂るやう、我が夫は最早老年にして長く此世に生活ふべき身にあらねは妾は寧ろ夫が平常其命よりも大切になしたる物を救しなりと、此に繼で己が子を負ふて出で來る婦人あり、此子は近邊にて評判の怠惰郎なるが馬鹿の子ほど猶可愛とか云ひるものか、此の婦人は其家に順良なる男女の子供も二世の夫も打舍て此の馬鹿息子を誘れ出てけり、斯の如にして夥多の婦人は皆々思へ思への品物を負擔して出て來り、其數一々枚擧するに遑あらず、忽にして余の前後左右は組紐絹物縫箔の類其他幾十個となき種々の雜貨を堆積しさながら壹個の唐物店を開店したるが如く、就中いと笑止なる談は一人の婦人あり、然かも其夫を背負ひしに其躰量至て輕ければ序なりと思ひ「フランダア」製の「レース」の大捆を腕にかひ込みて蹣跚として出て來りしが自ら其重さに堪へざる樣になりしかば其夫を途中に打舍てゝ抑て「レース」を救ひ出せり、斯く幾千となく無數の婦人中唯ッた一婦其夫を救ひ出せるあり、此夫は靴直しを業としけるが平常其妻を鞭撻呵責せざる日とては一日もなかりし程にて今己が其妻の脊に負れて行く間にも始終之を蹴りつ突きつしいじめ居れり

「スペクテートル」記者よ余は此の手紙を終る前に我が夢中にて最も奇怪なる出來事を談さゞる可らず、そは十二人程の婦人が大勢打寄りて一人の男子を誘れ出せるを是れなり、余は其誰なるや分らざりしに漸く近くに及で即ち足下の顔なるを知りたり婦人等謂へるやう、足下をかく救ひ出したるは其容貌の爲めにあらず、全く足下の著述の爲めなれば、足下は向後其主筆なる「スペクテートル」雜誌を續きて刊行せられよとの約束に出でしなりと、、、、、、、、、、、、

以上の奇夢記して以て足下に寄す、足下若し取るに足るべきものと思召され掲載の勞を取らば幸甚

スペクテートル記者足下　愛讀者ウ井リヤム、ホ子コンム

淑媛方は此の手紙を見て余の屬し物したる如く、「ウ井ル」氏は昔風の洒落者にして、伉儷を嘲笑して以て自ら得たりとなし、加之淑媛方に緣談を申込みしが盡く謝絶せられたる人なるを承知せらるゝならん、されども、余は此手紙を沒書とするに忍びず、唯ゝ彼の實事なる邊斯堡の圍城の談は以て婦人の榮名を爲すに足るものにして、又「ウ井ル」氏は婦人を譏誣せんと欲して殊更に一個の夢物語に托してものしたる事を知るべし

●新報

○華族女學校　同校は先年學習院の女子部と下田歌子の私塾生徒より成立し者にて方今ハ皇后陛下親しく之を知ろし召され時々御臨校にも相成る事なるが右學校は眞の假普請にて永續の見込なく殊に本皇居落成の上ハ陛下親臨の御都合も如何あらんとの事にて今度赤坂見付の雲州邸跡の空地に新設せんとの議もある由にて目下圖面製造中なりと先其迄ハ今の學校にて間に合す都合なれども差向き狹隘なるを以て同所にも別に假普請にて增築に掛り居れりと云ふ

○婦人手藝學校　舊婦人慈善會長伊藤伯夫人梅子の方を始め同會員諸子の協力にて今度養蠶、製糸、機械、裁縫等の業を練習する手藝學校を設立し有志の女子ハ貴賤を問はず入校を許し且つ貧民の姉妹にハ無謝儀にて教授する方法にせんと目下專ら周旋中なりと聞く(朝野新聞)

○女教師招聘　華族德川家達君は今度千駄ヶ谷村の自邸へ女學校を設立さるゝに付き琴は山勢松韻氏に任されたりと

○愛媛博愛社　今度愛媛縣松山に愛媛博愛社なる者を設けしが其主旨は彼の日本赤十字社と同しく已に入會者四百餘名に至りしかば目下縣下巡視中なる藤村縣知事の歸縣次第總會を開き本規則を設くる筈なり且同社内へ婦人慈善會なる者を設けしに官吏紳商の妻女入會する者六十名あり去る十五日其第一會を開き會則等を定めたりと

○看護婦洋行　東京慈惠醫院の事は前號にも報導せしが今回同院の看護婦生徒拜志よしね(二十年)奈須せい子(二十一年)の二名殊撰せられ看病學研究の爲め英國倫動府シントマス大病院へ留學せられたり尤も今回歸國せられし宣教師ハリソン夫人が在東京中病痾に罹られたる始より右の兩子は懇ろに看護せられたる因により推て乞はるゝまゝ今回も仝婦人の看病を兼ね航行せらるゝよしなり附て云ふ拜志子は既に高等師範學校を卒業せられ昨年二月より仝院へ那須子は仝二月より最初は下婢として仝院に雇われ間もなく看護婦補に上けられ更に看護婦生徒の資格を以て留學を命せられしなりと同所の幹事松浦子より聽きぬ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

○鈴木弘恭大人著述○小中村清矩大人評

改正増補 **文法口授** 全一冊●一名和文獨案内 定價十八錢 郵税四錢

此書は文章家なる鈴木大人が多年諸學校の生徒に和作文を授業せられしを筆記したるものにて嚢に出版したる所大に諸校の賞用を得たれば尚亦今般大人に乞ひ改正増補して古人の文章數十篇を巻尾に付し或は雅文を俗文に譯し或は漢文を和文に譯したる作例をも擧げたり然れば啻和文のみならず漢文を學ぶ人の和文を漢文に譯するにも大に益あるべし且女學校などに於て和文を學ばんとする生徒諸君の爲めには此に過たる良書なかるべし

●右文法口授は學校教科用の書籍に適當也とて發兌后一週日を經ざるに既でに

成立學舍女子部及び**頌榮女學校**並に**明治女學校**及び**長榮女塾**等の**教科書**となりたり

東髪案内 美製小本八十頁細圖人 定價十五錢郵税四錢也

田口卯吉君結髪沿革附錄○和崎義路君校○巌本善治君跋

渡邊鼎君著

當今東髪流行の折柄其結び方不案内の婦人尠からず此書は日本婦人に適する東髪二十餘種の結び方を丁寧に教へ一々細圖を附して親切に案内すれば何如なる僻遠の地に在りて東髪の風を知らざる人々もこれに依て容易に自ら試みるを得べし特に田口卯吉君の論文東髪會の規則其外をも添へたれば結髪改良に志ある人々は宜く一讀あるべし

通信女學 第一巻 第二巻 **再版成る**

右發兌後非常に需要多く二巻共に賣切の所其再版出來致候に付尚ほ需に應ずるを得べし○尚ほ第三巻去月發行可致處女學雑誌發行停止に付一社出版物の法律に依りて發行被差止候に付當七月末には第三第四兩巻を發兌すべし

東京新橋日吉町八番地 女學雑誌社

雲南本口 **上等麝香廉賣** 盃は廿五錢より 皮は廿錢より

麝香は一種無比の良香を有するが故に古來我日本及び支那の如きは勿論近今西洋諸國にても頗る之を愛珍するに至りて夫の薔薇等と共に香具上最高の地歩を占めり我國現時文運大に開け婦人亦交際場裏に驅驅するの秋とはありぬ貴婦人方は常に之を携帶して汚臭の襲侵を防がせらるれば啻に衞生の益のみにあらず亦交際上一個の必用品なり何卒御試用の上御佳評奉願上候也

本店 東京神田區小柳町六番地(昌平橋通) **森島松兵衞**

細君の友 定價五十錢 紙數二百十三頁

英國ドイグ夫人著 日本井上勤君譯

凡そ世の細君方は必らず子供を養育し婢僕を指圖するの職分あり此職分は何れも心配多き事なるが取分け近來漸く西洋風の教育、衣食住の流行に從ひ子供の養育法も婢僕の召使方も次第に改良すへき事少からず此書は英國のドイグ夫人が右の職分を最と親切に說き明せしものなれば世の細君方には家事を治むるの善き友達なるへし

東京神田雉子町 與論社書店

小子儀今回出京赤阪病院ニ從事シ傍ラ自宅ニ於テ婦人及小兒科ヲ治療ス

赤阪區氷川町四番地勝氏邸內

三田村敏行

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

轉居 浅草區新平右衛門町壹番地（左衛門河岸ト通稱ス）へ
是迄ノ通毎日午前診察致候
岩田文吉
七月

●速記叢書 **講談演説集第六冊** 八月一日出版
●毎冊定價郵税共特別割引十四錢（郵券代用隨意）
●但第三冊ニ限リ定價郵税共七錢

第六冊目次●**彗星の話** 理學大學教授 **寺尾壽君**●**小説と演劇との關係** 文科大學教授 **小中村清矩君**●**行政法大意第三回** 内務省參事官 **宇川盛三郎君**●**專修學校生徒卒業式祝辭** 元老院議官 **加藤弘之君**●**雑記**●本年九月倫敦ニ開カルベキ萬國速記法大會議ノ議題要目●全國の速記者に望む

發賣 ●東京日本橋通三丁目丸善書店●同本町三丁目●瑞穗屋 ●東京馬喰町二丁目石川治兵衛●同神田淡路町巖々堂

婚姻論 朝野新聞記者 横山雅男君著
統計局次長世良太一君序○統計會議員呉文聰君序
右一冊定價三十五錢郵税十四錢也
本號批評の欄内に記したる如く男女の方々ともに必讀の書也
東京新橋日吉町八番地 **女學雜誌社**

●駒木根貫一郎先生編 ●板權免許
毛糸編物法
●洋綴頗美本全一冊。一千部限り女學雜誌の看客に限り特別大減價二十五錢●郵税十二錢●切手代用必ず二割増しの事●着金則日送本す●帽子涎懸巾着靴下菓物肩掛等に至る迄數十種の方法を記載せり
全國專賣所 大坂中の島常安橋北詰一丁西入北側 **川井美津書店**

発兌				
七月。二日	九日	十六日	廿三日	三十日
八月。六日	十三日	二十日	廿七日	
九月。三日	十日	十七日	廿四日	
十月。一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價

一冊。五錢 郵税。一錢（但府内無郵税）
十冊。四十八錢郵税。十錢（同前）
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行 一回 （廿七字詰） 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道徳なる事物の廣告は謝絶す有益なる書物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町開々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町頁明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○東京本郷四丁目文壽堂○横濱住吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○勢州松坂家里初枝

東京京橋區日吉町八番地
發行所 本局 **女學雜誌社**
持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐